

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

リビング・UIL

2017年
1月発行

No. 164

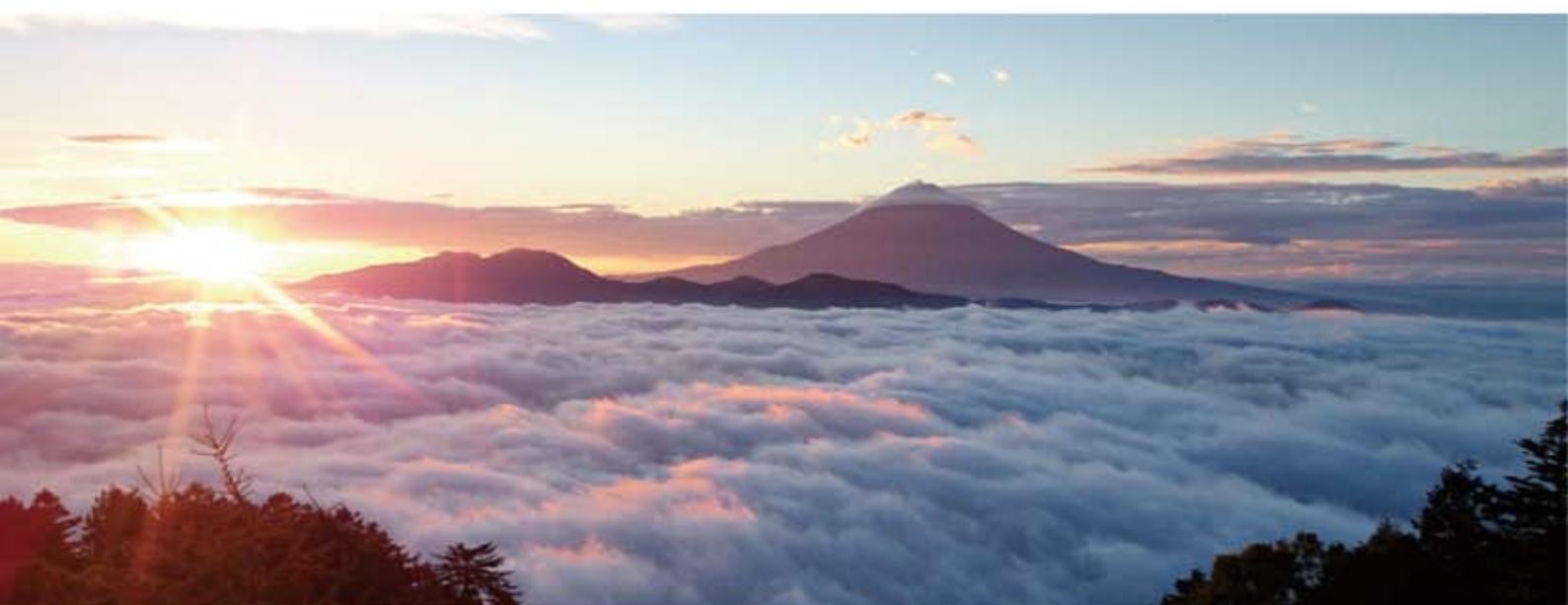
首相の時に
入会を決め、
終身会員になる

小泉純一郎

元首相

特別座談会

- 岩尾理事長 年頭所感
- 療養病床の再編計画進む
- 「熊本復興」市民フォーラム



小泉純一郎さん

特別座談会 最期をライオンのように



10年来の会員である元首相、小泉純一郎さんを囲んで協会の岩尾總一郎理事長、鈴木裕也、長尾和宏両副理事長が語り合った。箱根で軽くゴルフをしたあとで、話は最期の在り方から健康法、首相時代のエピソードまではぐんだ。

首相時代に尊厳死資料集め



いわお・そういちろう／日本尊厳死協会理事長、医師。元厚生労働省医政局長、慶應義塾大学医学部客員教授。1947年生まれ、慶應義塾大学医学部卒。(右2人目)

すずき・ゆたか／日本尊厳死協会副理事長、医師。元埼玉社会保険病院院長。1943年生まれ、慶應義塾大学医学部卒。(右端)

ながお・かずひろ／日本尊厳死協会副理事長、医師。「長尾クリニック」(兵庫県尼崎市)院長。1958年生まれ、東京医科大学卒。(左端)

岩尾 本日は小泉純一郎さんをお迎えしました。小泉さんは2006年に終身会員として尊厳死協会に入会されました。会員になられたときは現役の首相で、当時の新聞にも「首相、『延命拒否』の協会に」と大きく報道されました。

小泉 ゆーっと以前からね、お見舞いに行つた病院で意識もないのに「スパゲッティ状態」でいる人を見かけることがあって、あれはよくなないと思っていた。昔の人は治療の手立てもなく、食事も摂れなくなつたら老衰で死んでいった。自然とね。できたら自分もそうあたりたいと思い、尊厳死協会の資料集めもしました。食事を絶つて、痛みだけ消してもらつて死にたいなあという気持ちからです。

岩尾 食事を絶つてというのは強い思いのようですが…

小泉 私は動物のドキュメンタリーが好きで、ライオンの生態を長年追つた記録映像が強く印象に残っている。メスや子の群れを引き連れたオスのボスライオンもだんだん年とつて老いてくると、放浪の若いオスとの闘いに敗れて群れを乗っ取られる。深手を負つたボスはエサもとれないから、群れを離れたところでじーっとして目から鼻から寄生虫にたかれながら払おうともせず、死んでいく。絶食状態では痛みを感じないじやないかな。ああいう動物を見ていると、自分でエサを摂れなくなつた。だんだん食事が摂れなくなります。だんだん食事が摂れなくなるうちに大黒柱的存在だった親代わりをつとめてくれて、ほんとうにうちの大黒柱的存在だったんです。だんだん食事が摂れなくなつてきましたが、最後まで意識はしっかりと、私が見舞つた翌朝、穏やかに永遠の眠りにつきました。延命治療を控えて痛みだけはとつてくださいとお願いし、医師もわかつてくれました。

小泉 ずーっと以前からね、お見舞いに行つた病院で意識もないのに「スパゲッティ状態」でいる人を見かけることがあって、あれはよくなないと思っていた。昔の人は治療の手立てもなく、食事も摂れなくなつたら老衰で死んでいった。自然とね。できたら自分もそうあたりたいと思い、尊厳死協会の資料集めもしました。食事を絶つて、痛みだけ消してもらつて死にたいなあという気持ちからです。

岩尾 それに比べて人間は自分で食べられなくとも流動食があるし、介護してくれる人もいるからね。私も自分で食事ができない、酒も飲めないとなつたら、昔の人みたいに静かに死ねればいいと思っていました。だんだん食事が摂れなくなります。だんだん食事が摂れなくなるうちに大黒柱的存在だった親代わりをつとめてくれて、ほんとうにうちの大黒柱的存在だったんです。だんだん食事が摂れなくなつてきましたが、最後まで意識はしっかりと、私が見舞つた翌朝、穏やかに永遠の眠りにつきました。延命治療を控えて痛みだけはとつてくださいとお願いし、医師もわかつてくれました。

小泉 姉は84歳でした。私の長男、孝太郎（俳優）、次男の進次郎（衆議院議員）が幼かったころから母も自分で食事ができない、酒も飲めないとなつたら、昔の人みたいに静かに死ねればいいと思っていた。私の祖父（又次郎氏＝元衆議院議員）はね、86歳のとき昼間は遊んでいたその夜に死んでいった。——昨年8月に亡くなられた小泉さんの姉、小泉道子さんも10年来の会員でした。

枯れて痛み和らげれば

鈴木 神様は寿命が来きたときに

は苦しまずにしてくれている。実は

私の母親もそうでした。私は講

演会でよく「秋にはコウロギは全

部死ぬが、のうちまわっている

のを見たことがないでしょう」と

話します。

小泉 食べられなくなつたら自然

の経過に委ねれば痛みを和らげる

作用があるのではないかね。

岩尾 長尾さん、医師サイドから

すると栄養補給など何もしないと

いうのは「餓死で死なることに

なる」という人が結構いますね。

長尾 私は在宅医療をやつており、

これまで千人ぐらいの患者さんを

診てきました。食べられなくなる

とだんだん細つてくるのを自然の

経過に任せると、おっしゃったよ

うに痛みがなく、あつても知れて

いる。ゴツツイ痛み止めを使わな

くていいんです。

ところが病院にいくといっぱい

栄養補給するから苦しむんです。

で、たくさんモルヒネを使って最

後は半分くらいは鎮静剤で人工的

に眠らせる。意識があるのにね。

がんでも老衰でも何かを口にして

います。そこで少しずつ枯れてい

くと苦痛が少ない。たくさん栄養

をやり過ぎると、体が受け付けず、

苦しみながら早く死ぬんです。私

はそういう本をたくさん書いてい

ます。

噛むかむ健康法

小泉 それがいいなあ。ところで

いまは80歳すぎても元気で歩き、

ゴルフしている人が大勢いる。私

らが若い時分には思いもよらなか

ったが。

私の親父（純也氏）元防衛庁長

官）は65歳で肺がんで亡くなつた

から自分も65歳までは一生懸命現

役でがんばり、それを過ぎたら国

会議員も引退しようと前から考え

ていた。その後はね、何歳まで生

きるかわからなければ、できた

たとき「お粥は必要ない。普通の

ご飯を甘くなるまで噛みなさい」

と教えられた。ご飯でも肉、魚、

野菜でも噛んで、噛んで噛めば必

ず甘くなる。そうすると唾液が出

て胃腸にもよい作用がある。

ら祖父みたいに座布団挟んで孫と花札でコイコイして遊んだり、朝顔をつくつたり盆栽をいじつたり。ああいう生活がいいなあと思つていた。いま考えてみて、70過ぎて結構元気でいる。

鈴木 子どもというのは親の死んだ年齢を気にするものですね。

小泉 それでね、元気でいるには体操もいいなあと思って、親しい人から真向法がいいですよと言わ

れて半年前からやりだした。4種類の運動で腰や背中の筋を伸ばす

わずかな運動ですよ。最初はモモ



大雜把でいい、わかれば

岩尾 外側から見ていますと、首

相経験者は就任したときと比べ辞

められるときの顔がなんとなく険

しいですね。仕事のなせる業でし

ょうが、小泉さんはいまの方が元

氣で若返つて見えます。

小泉 それはそう、はるかに元氣

ですよ。総理を辞め、重圧と束縛

から解放されて10年がたちますか

ら。総理時代はゴルフだつて1回

もやつてなかつた。体操とか運動

をする気もないもの。毎日疲れて、

寝て、朝は目覚まし時計に早く起

こされ、うーん二度寝もできない

しね。目が覚めれば国会での答弁

資料を読んでさ。

岩尾 小泉さんは国会でもあまり

答弁書通りにお答えになつていな

かつたみたいですね。

小泉 いちいち読みあげるのは少

なかつたね。でも答弁書は事前に

一応読んで頭に入れ、全体を間違

えないようになっていた。外務、厚

生省などが想定問答集を作成する

や足の筋は痛くなるしできなかつた。先生についているわけではなく、本を送つてもらつて写真の通りに運動をやつているうちに、柔軟体操みたいのができるようになつた。

——箱根で車を降りてからの小泉さんの歩幅には感心しました。

小泉 もともと歩くのは早いんだ。

それでね、よく年寄りに歩かない

と骨粗しそう症になるというけれ

ど、歩けなくなる前によく歩いておきなさいと言いたい。骨粗しよ

う症になつてからメザシとか小魚

が、野党の質問趣意が届くのが遅いから徹夜作業になる場合が多い。あるとき、俺たちは徹夜で用意しているのに総理はちつとも読んでくれないという不満を聞いた。いや、想定集を読んでいるから大体の言葉で答えられる。心配するな、だから失言しないんだ。（笑い）こういうことかと理解でき、自分に理解していましたけど。

小泉 大雜把でいいから、わかりやすく自分の言葉で国民に向かい合う方がいい。いまよつとしたぶら下がり取材でもペーパーを読んで説明する大臣をテレビで見かける。あれはよくない。

鈴木 その束縛から解放されて、（飲む仕草をして）こっちの方はどうですか。

小泉 毎日飲んでいます。私は顔に出ないたちですが、昔から謡われるように大体2ゴウまで（笑い）。



酒気帯び会見もあった

酒という、あの郵政解散の8月8日（2005年）のことを思い出すなあ。

参議院本会議で郵政民営化法案

が否決されて国会解散となるので

すが、夕方6時から経団連幹部ら

との会合が入っていた。数か月前からの約束で止めるわけにいかないので、一緒に食べながらという

ことで会食弁当が出た。弁当のおかずがおつまみにぴったりだ。で、顔に出ないから大丈夫だと日本酒

を出してもらつた。もうやめた方がいいですと言わながら、2、3合飲んだ。それから夜8時に郵政解散の記者会見をやつたんだが、実は酒気帯び会見だった。今だから言えるけどね。

鈴木 每日少しずつでも酒を飲めるのは健康の証しですね。

小泉 私ね、2006年の9月に総理を辞めてからしばらくして健

康診断を受けたら、血糖値が主治医もびっくりするほど上がつてい

た。そういうえば総理を辞めてからず一つと外食ばかりで肉とかばか



3・11で私の余生変わつた

岩尾 日本は超高齢社会にあり、

2025年には高齢者人口が3500万人とピークを迎えます。これだけ多くの方が年を取つて生きていくときに、やりがいを持つことは健やかに生きるために大きい。ただ病院に寝ているだけといふのは、自分の人生、自分の物語を閉じるにしては少し寂しいなあと思いますね。

小泉 先ほど話したように私も親父の年齢を意識していたが、幸いにして59歳で総理大臣になつて64歳で辞めた。あとは余生だと思つていたが、まさかその後に「原発ゼロ運動」にこれだけ情熱を燃やすとは思つてもみなかつたね。人生の残されたやりがいというか。

終章に生きがいあれば

鈴木 それは人生の最期の充実感に通じ、何であれ、やりがいを持っていることは非常によいことです。

小泉 誰でも年をとつても自分が

90分、立つたままやつています。興味を持ち、自分でもやりがいが持てることだからね。

岩尾 超高齢社会をやりがいを持つ生き切るというのはすばらしいことです。小泉さんの元気さも心強い限りです。これを機会にぜひ新年から日本尊厳死協会顧問としてご活躍をお願いしたいのですが。

小泉 はい、わかりました。

構成／編集部 写真／八重櫻信之

こいづみ・じゅんいちろう

元首相（2001年4月～2006年9月）。30歳で代議士となり、厚生大臣、郵政大臣を歴任。派閥に頼らず自民党総裁選に立候補、「自民党をぶっ壊す」発言などで「変わり者」視されたが、本人は「常識人」と。首相となって「郵政解散」をバネに持論の郵政民営化を実現。政界を引退して「3・11」後は、「原発ゼロ」運動で飛び回る。1942年生まれ、慶應義塾大経済学部卒。

（1987年）に百歳長寿者が2千人を超えたが、いまは6万人を超えている。すごい時代だ。その8割が女性だという。個人的に思つんだが、男性に比べて暴飲暴食しない、家で休養が多いからだね。（笑い）厚生大臣の時に、健康の秘訣はまずバランスとれた食生活、2番目に適度な運動、そして十分な休養といつていった。特に休養がいいというのは自分も引退してからの経験でよくわかつたよ。

日本では百歳者の8割が要介護状態と言われています。高齢者は筋力や活動性が次第に低下し、この状態を「フレイル」と呼び、これから要介護状態になることを防ぐ方策が検討されています。フレイルの判定の一つに歩行速度がありますが、小泉さんのあの足早ならこれからも大丈夫ですよ。

長尾 長生きに女性が多いのは遺伝子で決まっていることとして、ご意見にはびっくりします。

岩尾 いま百歳で健康長寿を実現した方を「センテナリアン（centenarian）」と呼ぶ言葉が生まれているほどです。ストレスの少ない人が多いようで、健康長寿の秘密の解明も幾つかの医学部で取り組んでいます。

——協会会員の百歳長寿者は272人で、女性が204人。90歳代の会員は1万人を超します。

長尾 町医者の私が看ている百寿者もいま10人位おられ、全員が在宅医療です。なぜ百歳まで到達できなかつたからです。

272人で、女性が204人。90歳代の会員は1万人を超します。

——協会会員の百歳長寿者は272人で、女性が204人。90歳代の会員は1万人を超します。

少ない人が多いようで、健康長寿の秘密の解明も幾つかの医学部で取り組んでいます。

——協会会員の百歳長寿者は272人で、女性が204人。90歳代の会員は1万人を超します。

少ない人が多いようで、健康長寿の秘密の解明も幾つかの医学部で取り組んでいます。</p

年頭所感 今後10年に向け

多死社会こそLWに存在感を

理事長 岩尾 総一郎

新年明けましておめでとうござります。

日本尊厳死協会は設立41年目を迎えた。協会が歩む今後10年は、わが国が「超高齢多死社会」へ向かう道程とも重なり、リビングウイル（LW）の重要性はいつそう高まります。50周年に向けた協会の方向性は、今春発行の会報特集で示すことにしておりますが、ここでLWをめぐる状況について若干述べさせていただきます。

ここ数年、医療、介護、広く社会保障にかかる「2025年問題」が話題になつてきました。10年後には団塊の世代が75歳以上に



達し、うち90%が高齢者と推測されています。「多死社会」の出現です。

この「超高齢多死社会」は、高齢者がどこで、どう死ぬかの問題を投げかけています。人生の最終段階を迎えた人たちが「穏やかな最期」を迎えられる基本は「個人の尊厳」と「患者の意思」が尊重される社会の実現にかかることはなるのです。

LWは超高齢社会に必需

統計調査からは、年間死亡者は現在より30万人多い160万人になります。

そしてLWは、個々人が「最期の医療をどうしたいか」、つまり「最期をどう迎えたいか」を家族や医療側に伝える一番大切なメッセージまでありません。

協会は2015年、外部有識者の交えた「協会発行のLWに関する検討会」報告書を公表し、事前の意思表明で考慮すべき諸要件とえます。

セージなのです。これまで協会に登録された会員数は約25万余、うち半数が現会員です。

実効性高める工夫

協会LWは、本人の自律性に基づく終末期医療に備えた意思表明書として社会的にも高く評価されました。しかし、複雑になる社会事情に対応するための実効性を少しでも高める工夫は必要と考えられます。

そこでLW時代の到来、すら予

感されます。

協会LWの模索と具体化は今後10年の方向性に含まれる大きな項目と考えていました。

日医・生倫懇に参加

最後に、昨年11月から日本医師会の第15次生命倫理懇談会が始動し、私も委員の一人として参加しました。

そこでLWの普及はもとより、終末期医療における患者の意思尊重と実効性の担保を、強く医療関係者に働きかける所存です。今年もよろしくお願ひします。

協会顧問はこれで5人となつた。ほかに牛尾治朗（ウシオ電機会長）、扇千景（元参議院議長）、奥田碩（元トヨタ自動車会長）、吉永みち子（作家）の各氏

元首相小泉純一郎氏 協会顧問に

して①自己決定する意思能力の証明、②意思継続の確認、③意思能力の衰退時・消滅時の対応、について問題を提起しています。解決策として、LW作成時の証人や家族・親族を含む代理人の選任を明確にすべき時期に来ていると思っています。「認知症800万人時代」を認識したことです。

協会の「ご遺族アンケート」では、「会員のLWが最期の医療に生きられた」割合は長年、9割台を維持しています。これは40年間、人間の生と死を考え、LW普及に先駆的に取り組んできた協会の存在意義が大きかったことの表れです。残る数字に「穏やかな最期」の障害となるものがあることは事実ですが、協会は医療界にLW受容意識を高めさせる努力を続ける覚悟です。

自治体・医師会発行も

LWが社会的に認知されてきたことに関連する新しい流れがあります。現在、多くの病院で協会と同趣旨の事前指示書が入院時の医療計

画に組み込まれています。また地域の医師会や地方自治体にもLWなど独自の意思表明書を発行する事例が出ています。最近、こんな話を聞きました。

神奈川県横須賀市は、地域医療包括ケアシステムのなかで「最期までおうちで暮らそう」に取り組み、市民ガイドブックに意思表明書2例を紹介し、その一つが尊厳死協会LWでした。ところが市独自LWを発行する計画が進んでいるそうです。

市が紹介するもう一例は国立長寿医療研究センター病院（愛知県大府市）のLWを含めたACP（アドバンス・ケア・プランニング）です。将来の意思決定能力低下に備え、自分に代わって意思を伝えてくれる人の情報などを患者、家族、医療者が共有できる全体的ケアプランニングです。

協会LWの紹介コーナーが一つ消えることは残念ですが、地域に新しい取り組みが生まれることは歓迎すべきことです。各種LWが世に出るようになってから、超高齢多死は高まってきたおり、超高齢多死

元首相、小泉純一郎氏が日本

尊厳死協会の顧問に就任すること、昨年11月17日開かれた理事会で承認された。1月1日から任期は終身。

小泉氏は神奈川県横須賀市出身、74歳。祖父から進次郎氏（小泉氏次男、衆議院議員）まで4代続く政治家家系の3代目。

2001年4月から2006年9月まで首相を3期務めた。首相時代に協会会員になつていて。

協会顧問はこれで5人となつた。ほかに牛尾治朗（ウシオ電機会長）、扇千景（元参議院議長）、奥田碩（元トヨタ自動車会長）、吉永みち子（作家）の各氏

療養病床14万床の転換計画

2018年から

新入居施設案



「住まい」感覚と

看取り体制を重視

「療養病床」の再編計画が進んでいる。

その成否は、今後増加が見込まれる慢性期の医療・

介護を必要とするあなたの最期の日々にかかわってくる。

高齢者が長期入院する「療養病床」の再編計画は、全国27万4千床のうち医療ニーズの低い半数を廃止し、「新しい施設」に転換するもので、国は2018年実施をめざしている。

病院の一般病床で急性期治療を終え、長期療養が必要な患者さん

が療養病床に移る。たとえば脳卒中でたん吸引、慢性病で透析などが必要な方たちだ。

療養病床には介護保険適用の「介護型」(6万1千床)と医療保険適用の「医療型」(21万3千床)があり、全国の全病床177万床の15%を占めている。

再編案は昨年6月から社会保障審議会特別部会で審議され、2月には結論が出る予定。

國の方針は、療養病床の半数を占める手厚い医療を必要とする分を存続させ、医療型でも医療の必要性が低いと介護型を合わせた13万7千床を廃止する。大ナタを振るうのは、増大する国民医療費を抑制するねらいがある。

廃止分は「新しい施設」に転換・移行案が用意されている。厚労省は社保審に具体案を提出した。

利用者イメージを

3タイプ案に反映

医療の必要性に応じて「医師常駐型（2種ある）」と、医師がいない「居住スペース型」施設の3タイプ（図）。居住型でも病院と同じ敷地内に併設のイメージで、訪問医療体制を整える。

新施設プランには、現在の利用者実態が反映されている。厚労省がまとめた「利用者イメージ」の概要は次の通り。

● 平均年齢は医療病床（軽症者）81歳で要介護度4以上38%。介護

現利用者9割が反対

難航なら介護難民も

現在の利用者にも不安が広がっている。東京都慢性期医療協会は昨年8月、療養病床を持つ都内7

病床は85歳で要介護4以上は85%。平均在院は医療病床168日で死亡退院割合は27%。介護病床は平均在院484日で、死亡退院割合は35%。

利用者イメージから医療機能の濃淡はあってもいずれも「住まい」の機能と「充実した看取り」体制の重視が基本的な条件となっている。死亡退院割合から利用者のかなりが終末期まで入所することが想定され、24時間対応のターミナルケア体制が欠かせないとされる。

再編は必至の情勢だが、病院側、患者側の心配はつきない。高齢化の進捗とともに設けられた療養病床制度は歩みの中で翻弄され、これまでの改革もうまくいかなかった歴史を持つからだ（注）。

医療機関が病床を新施設に転換するにも多額の投資が必要で、経営地内に併設のイメージで、訪問医療体制を整える。

「療養」医師も積極的に終末期医療にかかる

〈注〉 療養病床の歩み 医療必要度が異なる患者が入院病床に混在するのを解決するため1993年、一般病床と区別する「療養病床」が誕生した。しかし、入院治療が不要になつても行き先のないまま患者が留まる「社会的入院」の温床になり、一時は38万床に膨らんだ。

再編計画は18年実施としても施設転換などに2、3年の経過期間は必要とされる。しかし、医療機関の対応も始まっており、医師の意識も変わってきている。在宅医療にも取り組む協会副理事長で医師の長尾和宏さんが次のように話

している。

「昨年11月、関西地方で多くの療養病床をもつ病院グループの終末期医療勉強会に講師として招かれたり。今後、療養病床や再編施設で医師が終末期医療に積極的にかかることになる。勉強会で療養病床にある患者さんでも終末期の意思決定は本当に難しいんだと実感し、在宅医療も大変だが療養病床はもつと大変なんだと思った。私も微力ながら応援していきたいと思っている。」

療養病床の転換案



2006年度医療改革で、療養病床のうち介護型の13万床（当時）を11年度までに全廃、老人保健施設などへの転換が決まった。療養病床数は漸減したが、病院など医療機関側は施設転換などで経営上の負担が重く、期限までに転換が進まなかつた。このため転換期限は17年度末までに延期されていた。

LWのひろば

新年を迎えて、「喝！」

日向勇剛 88歳 北海道

子供にも話しています

志田瑛子 85歳 東京都

平成29年。退職教員の私は、多病、半息災でやっと生きている。

杖を使い、長歩きはできないので、

決まったタクシー会社を使う。馴染みの運転手から「先生、長生きしてくださいね」と言われる。「どうして？」と聞くと、「会社が困ります」とのこと。その時、社会の皆に助けられ、生きていることを自覚する。

家族と向こう三軒両隣りが平和であれば、こんなうれしいことはない。

雀の涙の年金で暮らしている。その範囲内で、毎日の朝食においしいトマトジュースを飲み、「うまい！」と叫ぶのが、私達の合言葉である。

退職後に大病（脳腫瘍）を患い、オペをしたが、後遺症のため五感のうち満足なのは、味覚と触覚だけである。快食、快眠、快便に加えて、「快判断」が肝要である。リビング・ウイルの会員になってから、手前味噌かもしれないが、頭脳まで良い方向に向かっている。

表題の「喝」は自分に言い聞かせているもので、他人様に申している文言ではない。

主人は入会せず、78歳で亡くなつた。私は看取りが不安だったが、老介護のため、ホームに入居して8か月、明け方、1人で眠るように逝ってしまった。

傍にいなかつた自分を責め、毎日泣いた。

でも、「日薬」とはよく言つたもので、三回忌を過ぎたこの頃は、主人に感謝し、住む所があり、食べていかれること、淋しいぐらいは仕方ない。

今度は自分の番。忙しい子供たちに迷惑かけない様にと願うばかり。神様の決められたことで、時折、早く逝きたいとも思うが、それまで何とか穏やかに日々を過ごしたいと願うこの頃ではある。

リビング・ウイルのことは、子供にも話し、会員証を持ち歩いている（少しばかりのお小遣いも入れて）。もう、母の亡くなつた齡を越えてしまった。

何人の肉親を送り、色々の思いがあつて、私は20年ほど前にリビング・ウイルに入会した。

当欄が縁で心ほっこり

鏡淳子 77歳 山形県

昨秋発行の会報「LWのひろば」に載った愛媛県の山田良子さん（89）の「平成の『坂田の金時』」を、同感の気持ちで読ませていただきました。昨今の心憂るニュースの多いなか、どんなに多くの方々に安堵感と勇気や希望を与えたことでしょう。

私は最後の趣味として、「川柳やまがたの会」に入会させていただき、月に1度、ベテランの皆さんに刺激を受けながら川柳を楽しんでいます。

行方不明の大和君無事発見と聞き、「六日ぶり 山で発見 子に学ぶ」

を作りました。そこで、この句を色紙に書き、協会を通じて山田さんにお送りしたのです。すると早速、山田さんからお電話があつたのでした。投稿も起承転結の素晴らしい文章で感心していましたが、お電話の声も羨ましい限りの若々しい響きで、無駄のないお言葉でした。

また、一筆で遠近感を表現された「宗旦むくげ」の色紙絵と可愛い赤ちゃんの絵を送つていただきました。

人間、年ではないですね。素晴らしい生き方をなされている方との心のふれあいに、心がほっこりしています。

生きる今 数えきれない お陰さま



湘南の海に眠る

林原千晶 68歳 静岡県

4年前に妹、一年前に母、昨年は父と、4人家族のうち3人を立て続けに見送った。母は幻覚の激しいレビー小体型の認知症で、父は脳血管障害からくる認知症だった。父は本人の強い希望もあり、自宅で介護し、親族がベッドを取り巻いていました。

て見守るなか、安らかに息を引き取つた。見事な大往生は、思い起こす度、感動を覚える。

父の四十九日に横浜の実家に親族が集まり、散骨の準備をした。玄関の三和土に置いた父と母の骨壺をみんなで囲む。先ず合掌。それから一握りづつ、2つの壺から骨を手に取り、敷物の上で混ぜ合わせて、金槌で細かく砕いていく。最後は擂り鉢でさらにパウダー状にして、水溶性の紙袋に人数分、小分けにした。

散骨の日、両親の好きな湘南の海は快晴の青空の下、輝いていた。両親は稻村ヶ崎のレストランから眺める富士山を愛でていたものである。

「葬送の自由を進める会」がチャータしてくれたヨットで江の島沖へ。菩提寺のない両親のために、昨春から2人と妹の写真を携えて四国歩き遍路に出た。大学の非常勤講師の仕事があり、区切り打ちだが、70歳を中途に巡り終えるつもりである。

菩提寺のない両親のために、昨春から2人と妹の写真を携えて四国歩き遍路に出た。大学の非常勤講師の仕事があり、区切り打ちだが、70歳を中途に巡り終えるつもりである。

50代で入会、早くはない

多田圭子 52歳 東京都

2015年5月、末期がんの父を自宅で看取つたことをきっかけに、同年、終身会員になりました。私は独身で子供もいなため、自分の最期は自分で決めたい、また決めなければいけないと考えるようになります。今は尊厳死協会への入会で、大きな安心を得た思いです。50代の入会ですが、決して早いとは思わないのです。協会への感謝とともに、尊厳死の法整備が1日も早く整ってほしいと心から願っています。

テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの知恵」など自由。800字以内で。手紙またはファックス（03-3818-6562）、メール（info@songenshi-kyokai.com）で。

●写真の募集
4月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信（アドレスは同上）またはプリントを郵送。選者は日本写真家協会の八重樫信之氏です。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは2月15日です。

**被災地から力強く
LW普及は続く**

四国支部は、野元正弘支部長（愛媛大学大学院教授・神経内科）の発案で、様々な分野から講師を招く「エンディングノート講座」を始めた、今年5年目を迎える。

6回目の昨年10月13日、テーマは「もしもの時にあなたを支える制度について」。松山市内の支部事務所に11人が集まった。

「思いやりねっと」

講師はNPO法人「和道」の堀田学理事（社会保険労務士）。「和道」は、高齢者らのために財産の管理や身元保証、もしもの時の手続きなどをサポートする「思いや



堀田さんの話に耳を傾ける参加者たち／ 松山市内の支部事務所で

エンディングノート講座の歩み

- 第1回 ● 2013年7月24日**

相続について知っておきたいこと
講師：吉村紀行支部理事（弁護士）

第2回 ● 2013年11月13日

終の棲家と施設：あわてないために
講師：守谷祐氏（介護支援専門家）

第3回 ● 2014年2月19日

知っておくべき葬儀の知識
講師：池永英夫氏（愛媛県葬祭事業協同組合）

第4回 ● 2014年6月25日

知っておきたい成年後見人制度
講師：田之内貴志氏（行政書士）

第5回 ● 2014年9月17日

知っておくべき認知症と尊厳死について
講師：木村尚人支部理事
(松山記念病院代表理事)

第6回 ● 2016年10月13日

もしもの時にあなたを支える
制度について
講師：堀田学氏（NPO法人和道）

第7回 ● 2016年12月15日

自宅で迎える最期に必要なこと
講師：黒川理恵子氏
(エンディング支援センターえひめ主宰)

第8回 ● 2017年3月8日

介護を学ぶ—在宅での看取り—
講師：金田由美子氏
(愛媛県在宅介護研修センター長)

※支部事務所で、午前10時から1時間

「思いやりねつと」

は「もしもの時にあなたを支える制度について」。松山市内の支部事務所に11人が集まつた。

四国支部 エンディングノート講座

周辺情報の提供に取り組む 「会員のメリット」第一回

四国支部 エンディングノート講座

「尊厳死の話をすると、必ず財産のこと、介護の心配、どこで亡くなるか、といった問題が出される尊厳をもつてハッピーに人生を終えるためには、終末期だけでなくこうした周辺のことも重要だ」

四国支部は、野元正弘支部長（愛媛大学大学院教授、神経内科）の発案で、様々な分野から講師を招く「エンディングノート講座」を始めて、今年5年目を迎える。

堀田さんは、「和道」が使う「認知症になつても自分らしく生きるために」と題した「問診票」を紹介した。10ある質問項目には、「治らない病気なら延命治療はして欲しくないと望みますか」という質問も。ここにチェックした回答者には、「リビング・ウイル（医療に関する事前指示書）の作成」を

りねつと」を運営している。

「エンディングノート講座」は、終末期に関わる県内の各団体のネットワーク化につながった。 「B.S.21 エンディングカウンセラーアソシエーション」や、昨年末の第7回講座の主宰 黒川理恵子さん主宰「エンディングカウンセラーアソシエーション」とも交流をもつ。

地域でネットワーク化

勧めるアドバイスを用意している
相続や遺産、葬儀の質問もある。
こうした団体の存在を知らなか
った参加者から、「来てよかつた。
勉強になつた」の声も聞かれた。

勧めるアドバイスを用意している
相続や遺産、葬儀の質問もある。
こうした団体の存在を知らなか
つた参加者から、「来てよかつた、
勉強になつた」の声も聞かれた。

地域でネットワーク化

「エンディングノート講座」は、
終末期に関わる県内の各団体のネ
ットワーク化につながつた。
「B S 21 エンディングカウンセラーア
クセス」や、年末の第7回講座の
黒川理恵子さん主宰「エンディン
グ支援センターえひめ」とも交流
をもつ。

講座のテーマ選びには、事務所
で開く月2回の「サロン」での話
が参考になつてゐる。実は、昨年

好調に始まつた講座だが、支部予算の関係で2015年度は中断せざるを得なかつた。費用をかけず宣伝するために、地元の新聞、テレビ、フリーペーパーの催事欄を活用するなど、事務局スタッフの地道な努力と工夫が続く。

四国支部は、「協会がこうした勉強の場を提供することは、会員のメリットになる」と位置付け、これからも続ける予定だと言う。

の第5回「日本リビングウイル研究会」に俳優の近藤正臣さんを招くことができたのは、「サロン」の参加者から「近藤さんは会員。女性誌でも話している」と知らされたのがきっかけだった。

2回の震度7に見舞われた熊本地震から半年後の2016年11月5日、第8回日本尊厳死協会くまもと市民フォーラム（熊本県、熊本市など後援）が予定通り熊本市内で行われ、全国の協会会員に「熊本復興」をアピールした。

第1部は、熊本市保健所医療政策課の中林秀和主査が、同市作成の冊子『メッセージノート 人生の最終段階に受けたい医療とは』を紹介した。熊本市版の事前指示書（リビング・ウイル）で、同年2月に作成し、市民に配布中だ。

『ノート』は、「心に残る思い出」「最後に食べたい食事」などを記入するエンディングノートの要素も盛り込み、最期の医療のイメージが浮かぶように具体例を紹介し人工呼吸器や心肺蘇生などの延命措置を易しく説明している。

そのうえで、『ノート』に付け

た「人生の最終段階」に受けた
い医療（私の想い）に記入する
よう勧めている。A4版1ページ
の用紙で、延命措置の希望の有無
「口から食べられなくなつた時」
の栄養補給（点滴、胃ろうなど）
の要望を示す。「私の想いを伝え
ている人」（緊急連絡先）と「か
かりつけ医」を記す欄があるのも
特徴だ。

「九州支部くまもと」は、事前
指定（指示）書の普及に力を入れ
講演「生命倫理とともに考える医療」
講師：浅井篤熊本大学教授
シンポジウム「終末期をどう生きるか」

第1回●2009年9月26日（参加267人）

講演「楽しく長生きするために」
講師：大田満夫・九州支部長
寸劇「医療現場から」
パネル討論「事前指示書で尊厳死を守れるか」

第2回●2010年5月8日（参加380人）

講演「「こころ豊かに生きるために」

第3回●2011年9月24日（参加273人）

シンポジウム「心のケアを考える」

第4回●2012年10月8日（参加230人）

講演「あなたが不治の病になった時」
講師：吉田仁爾・表参道吉田病院長
寸劇「歳の差夫婦の会話」
講演「老後を健やかに生きるために」
講師：菅守隆・済生会熊本病院センター長

第5回●2013年10月12日（参加230人）

講演「認知症と尊厳死」
講師：吉岩あおい・大分大学病院講師
講演「認知症患者の治療方針で苦慮した症例」
講師：田中不二穂・表参道吉田病院副院長

第6回●2014年11月13日（参加154人）

講演「我国の尊厳死の現状」
J-W法制作会議にて

てきた。第7回市民フォーラムでは、全国に熊本宣言「終活に事前指定書を備えよう」を発表した。安藤正幸会長は、「市民に尊厳死思想の普及を目指すフォーラムの積み重ねで、地元にその土壤が作られ、行政がリビング・ウイルト先行した」とみている。

会員に拘らない「市民に開かれたフォーラム」の姿勢は、「寸劇」

題「尊厳死の側面」に合わせた事前指定書がテーマ。同病院職員が扮する「末期がん患者」と「医師」吉田さんのやりとりが、時に会場の笑いを誘った。

「九州支部くまもと」は、熊本市民になじみの表参道吉田病院内に事務局を置く。司会を務める藤本真智子・副看護部長らスタッフ20数人が、毎回、ボランティアとして運営を担っている。

文と写真 編集部・清水勝彦

講演「宗教だから救えること」
講師：糸山公照・臨床宗教師

第7回●2015年9月26日（参加193人）

講演「我が国における終末期の諸問題」
講師：岩尾總一郎・協会理事長

パネル討論「あなたが決める医療とケア
一事前指示書はどう生かされるか」

第8回●2016年11月5日（参加153人）

講演「人生の終末段階における医療
熊本市の取組み」
講師：中林秀和・熊本市保健所医療政策課主査

寸劇「佐藤さんの人生」

講演「尊厳死の側面」
講師：吉田仁爾・くまもと副会長



理学療法士の演じる「患者」を相手に熱演する吉田仁爾さん(右)

14

吉田仁爾「九州支部くまもと」副会長（表参道吉田病院院長）が脚本を書き、自らも出演している。

終末期に必要な情報提供



緩和ケアの大切さを語る井上彰教授

東海支部（小林司支部長）の第3回リビングUIL研究会東海地方会が昨年10月16日、「最期はどこで自分らしい終章を求めて」をテーマに、名古屋市内の愛知県医師会館に72人が参加して開かれた。同県医師会、名古屋市医師会との共催。中日新聞社後援。

「みのかも西クリニック」（岐阜県美濃加茂市）の益田雄一郎院長は、最近出版した『死に方』教本

を基に基調講演「高齢者の終末期ケア」を行った。

「高齢者がどのように死に向かうのか、その過程で本人はどんな選択を迫られるのか。ほとんど知られていない」ことが、出版の動機だった。

協会会員のように自分の死に方を自分で決めたい人が増えているだけに、「人の『死に方』は様々で体系化できない難しさはある

が、医師が十分な情報提供をすることが必要だ」と語った。

協会会員でスクールカウンセラーをしている臨床心理士の荒木久恵さんは、「親の思いをいかに実現させたか」と題して、延命措置を断つた両親に寄り添った体験を報告した。

愛知県知多郡東浦町でケアマネジャーをしている和田京子さんは、地域包括ケアシステムや介護保険制度、ケアマネジャーの役割など、参加者の知りたいことを分かりやすく説明してくれた。

最後に、参加者から「本人と家族の意見が違う場合」、「協会のカードと自作のものでは、医師への効果は違うのか」などの質問が出されて、意見交換が行われた。



参加者の質問に答える発言者たち

意味ある人生 最期まで

がんで緩和ケアの必要な方が身近にいる人、緩和ケアのボランティアをしたい人らを対象にした「がんの緩和ケア連続講座」（東海支部後援）が、名古屋市中村区の「青木記念ホール」で開講中だ。

昨年11月12日には皮きりの公開講座「がんの緩和ケアってなあに？」が開かれた。長年、緩和ケアに尽力してきた渡邊正・東海中央病院名誉院長は、「色々な病気に罹りながらも、最期まで自分の人

立した。2015年に井上教授が責任者となって作られた「緩和ケアセンター」は、診断の早期からの緩和ケアに欠かせない医療スタッフのスキルの向上と専門的な緩和ケアの充実を図っている。

がん治療の進歩は著しく、「治療と緩和ケアを真に融合させ、がん患者さんに『最善の治療』を提供する」ことを目指している。病院には、スピリチュアル（精神的な）痛みに対応する臨床宗教師もいる。井上教授は「進行がん治療の大前提は『治癒』ではなく、『病勢の制御』で、病患に正しく向き合ふことが、無理のない治療と穏やかな死につながる」と語り、緩和ケアで医療者の果たす役割は、患者が疾患を正しく理解するよう助け、治療の選択をサポートし、症状を管理し、「死に至る病」に正しく向き合える支援をすることだと言う。

続いて伊藤道哉支部理事（東北医科薬科大学医学部准教授）の司会で、佐藤富美子東北大大学院教授（がん看護学）、藤田紀子支部理事（弁護士）も参加して議論した。

青木さんは協会副理事長兼東海支部長当時の昨年2月、不治の病と診断され、余命宣告を受けた。「死ぬまでの数週間、数か月、その間を豊かに生きていけるかどうかは、緩和ケアが充実しているかどうかにかかっている」と自らの体験で実感したのに、緩和ケアへの理解も普及も十分でないことから、自宅を一般財團法人にした「青木記念ホール」内に、主催する「緩和ケアを学ぶ会」を立ち上げた。

講座（定員30人）は3月11日まで全8回。受講受付は終了した。

テーマは「緩和ケアの理解」「意思を伝えることの大切さ」「コミュニケーションの基礎と技術」「大切な人を亡くすこととケア」「緩和ケアの活動について」など。趣旨に賛同する緩和ケアのベテラン看護師や看護学の大学教員、弁護士らが講師になっている。

文と写真 編集部・清水勝彦

診断の早期から緩和ケアを

第3回LW研究会東北地方会

東北支部（橋村襄支部長）の第3回リビングUIL研究会東北地方会（宮城県医師会、仙台市医師会など後援）が昨年11月26日、「地域で生活を支える緩和ケア」をテーマに、仙台市内の東北大学医学部に約50人が参加して開かれた。

東北大学大学院の井上彰教授（緩和医療学）は基調講演で、東北大学病院内の「緩和ケアセンター」の役割と活動を紹介した。同病院は16年前、国立大学の病院としては初めて緩和ケア病棟を設けた。

東北大学大学院の井上彰教授は、初めて緩和ケア病棟を設けた。

井上彰教授は、「進行がん治療の大前提は『治癒』ではなく、『病勢の制御』で、病患に正しく向き合ふことが、無理のない治療と穏やかな死につながる」と語り、緩和ケアで医療者の果たす役割は、患者が疾患を正しく理解するよう助け、治療の選択をサポートし、症状を管理し、「死に至る病」に正しく向き合える支援をすることだと言った。

続いて伊藤道哉支部理事（東北医科薬科大学医学部准教授）の司会で、佐藤富美子東北大大学院教授（がん看護学）、藤田紀子支部理事（弁護士）も参加して議論した。

青木さんは協会副理事長兼東海支部長当時の昨年2月、不治の病と診断され、余命宣告を受けた。

「死ぬまでの数週間、数か月、その間を豊かに生きていけるかどうかは、緩和ケアが充実しているかどうかにかかっている」と自らの体験で実感したのに、緩和ケアへの理解も普及も十分でないことから、自宅を一般財團法人にした「青木記念ホール」内に、主催する「緩和ケアを学ぶ会」を立ち上げた。

講座（定員30人）は3月11日まで全8回。受講受付は終了した。

テーマは「緩和ケアの理解」「意思を伝えることの大切さ」「コミュニケーションの基礎と技術」「大切な人を亡くすこととケア」「緩和ケアの活動について」など。趣旨に賛同する緩和ケアのベテラン看護師や看護学の大学教員、弁護士らが講師になっている。

関東甲信越支部が新規事業 生協「終活フェア」 に出演

関東甲信越支部が新規事業

神奈川県生協連と（株）コープ総合葬祭が昨年11月1日に横浜市内で開催した第4回「生協のいきいき終活フェア」に、関東甲信越支部が初めてブースを出してリビング・UILを宣伝した。

会場には、尊厳死協会を始め、生前予約・葬儀信託、遺品整理、遺言・相続などに関わる団体や企業の15のブースが並び、300人を超す来場者でにぎわった。

支部からは丹澤太良支部長、支部理事ら5人が参加して、約30人から次々と質問や相談を受け、「入会のご案内」を手渡した。

「尊厳死のことを聞いたことがある。もっと詳しく知りたい」という人、「興味がある。会員になりたい」とその場で入会した方もいた。

「期待以上に来場者が多く、尊厳死協会への反応も良かった。今後も参加していきたい」と丹澤支部長は語る。



次々とブースを訪れる来場者

文と写真 編集部・清水勝彦

神奈川県では、20の生協が出資して（株）コープ総合葬祭を設立し、生協組合員の視点から積極的に葬祭事業や「終活」に取り組んでいる。関東甲信越支部にも以前から出前講座の依頼が多くあり、その縁で今回の出展となつた。

フェアでは、川崎医療生協の喜瀬守人医師が「最期まで自分らしく」をテーマに講演を行つた。同社の相田祐二社長は、「まだ死をタブー視して真正面から捉えられない人が多い。このフェアが、家族と話し合うきっかけになれば」と言い、尊厳死協会の参加を歓迎していた。

生を捨てずに、意味あらしめることが、私たちが緩和ケアを学ぶ最大の理由です」と語った。

青木さんは協会副理事長兼東海支部長当時の昨年2月、不治の病と診断され、余命宣告を受けた。

「死ぬまでの数週間、数か月、その間を豊かに生きていけるかどうかは、緩和ケアが充実しているかどうかにかかっている」と自らの体験で実感したのに、緩和ケアへの理解も普及も十分でないことから、自宅を一般財團法人にした「青木記念ホール」内に、主催する「緩和ケアを学ぶ会」を立ち上げた。

冬 活動部 春 2017

会員になつても
LWの勉強は
続きます
ぜひご参加を

北陸支部

☎ 076-232-0900

✉ hokuriku@songenshi-kyokai.com

富山県リビングウイル懇談会

テーマ「在宅・平穏死の時代を再現したい」

日程○3月4日(土)午後1時～3時

会場○富山市の富山県民会館704号室

進藤洋一支部長、喜多正樹支部理事(済生会金沢病院麻酔科部長)らを交えて、パネルディスカッション方式で話し合います。

会員以外の方もお誘い合わせてお出かけください

関西支部

☎ 06-4866-6365

✉ kansai@songenshi-kyokai.com

第12回サロン交流会

日程○1月17日(火)午後1時半～3時半

会場○支部事務所

テーマ「老後の健やかな生き方」
～3つのキーワードで考える～

定員○15人(要予約 支部まで)

担当の西口英雄支部理事が30分ほどお話をした後、自由に話し合います。

定例サロンへのお誘い

日程○毎週火曜日午後1時～4時半

1月10日、17日、24日、31日

2月7日、14日、21日、28日

3月7日、14日、21日、28日

会場○支部事務所

協会のこと、終末期のこと、リビング・ウイルのこと、おひとりさまの生き方のこと……支部理事とお茶を飲みながらおしゃべりませんか。予約不要です。お気軽にお越し下さい。

関西支部事務所の案内

大阪市淀川区宮原4-1-16 新大阪北ビル7F
(新大阪駅から徒歩5分。御堂筋に出ると屋上にLIXILのオレンジ色の看板の見えるビルです)

| サロンin本郷へお越し下さい。

地域サロンと内容は同じです、お茶を飲みながら皆さんでお話をする集まりです。

日程○1月13日(金)、28日(土)午後1時半～3時

2月10日(金)、25日(土)同じ

3月10日(金)、25日(土)同じ

会場○関東甲信越支部事務所(本部事務所内)

地下鉄丸ノ内線か大江戸線「本郷三丁目」

駅下車すぐ

こちらも参加は無料ですが、電話予約が必要です。

お知らせ

会員さんからご要望もあり、本年1～3月は、「サロンin本郷」の開催日を従来の第2第4金曜日から第2金曜日と第4土曜日の開催と試験的に変更します。平日お勤めの方でも参加可能な日程にしました。ぜひ多数のご参加を期待しています。また、難聴者の方々で上記各種イベントに参加ご希望の方は支部までご一報下さい。可能な範囲で対応したいと考えます。

東海支部

☎ 052-481-6501

✉ tokai@songenshi-kyokai.com

| 第9回岐阜地区リビングウイル懇談会in大垣

日程○2月5日(日)午後2時～4時

会場○大垣市北地区センター・ホール(定員100人)

大垣市林町6 (JR大垣駅より徒歩7分)

挨拶○東海支部長 小林司

講演「終末期ケアの自己決定について」

講師○益田雄一郎さん(みのかも西クリニック院長・東海支部理事)著書に『死に方教本』(幻冬舎)

意見交換

日本医師会生涯教育認定講座(申請中)

後援○岐阜県医師会、大垣市医師会、中日新聞社

| 地域サロン

日程○2月13日(月)午後1時半～3時

会場○青木記念ホール(名古屋市中村区中村中町3-30、地下鉄中村公園駅徒歩5分)

尊厳死、終末期医療、在宅介護などで日ごろ感じたり、疑問や不安に思っていることを、お茶を飲みながら語り合いませんか。一般の方も歓迎です。参加希望者は支部へ連絡の上、お越し下さい。

| 旭川おしゃべりサロン

日程○3月1日(水)午後1時～2時半

会場○旭川市ときわ市民ホール

フリートークです。どなともお出かけください

関東甲信越支部

☎ 03-5689-2100

✉ kantou@songenshi-kyokai.com

| 公開講演会in所沢

日程○3月9日(木)午後1時半～4時

会場○所沢市民文化センター(ミューズ)小ホール
西武新宿線「航空公園」駅東口より徒歩10分

講演「あなたの終活、間違っていませんか?」

講師○長尾和宏 日本尊厳死協会副理事長
(医師、尼崎市長尾クリニック院長・東京医科大学、関西国際大学客員教授)『「平穏死」10の条件』ほか著書多数

定員○318人。先着順、入場無料

《地域サロン》のお知らせ

(参加無料・予約不要・先着順です)

本郷へはちょっと遠い、という方はこちらにどうぞ!皆様方の地元でも是非地域サロン開催を!
⇒お問い合わせは支部まで

| 地域サロンin新百合ヶ丘

日程○1月30日(月)午後2時～4時

会場○川崎市麻生市民館 第1会議室
小田急線新百合ヶ丘駅北口下車徒歩3分

| 地域サロンin川崎

日程○2月21日(火)午後2時～4時

会場○川崎市教育文化会館第5会議室
JR川崎駅東口下車徒歩15分
駅前から「教育文化会館前」下車のバス便あり

| 地域サロンin溝の口

日程○3月29日(水)午後2時～4時

会場○川崎市高津市民館第5会議室
JR武蔵溝ノ口駅北口、
東急溝の口駅東口徒歩2分、
「ノクティ2」の12階



関西支部講演会in滋賀

2016年11月6日、大津市内で比叡山千日回峰を満行した光永覚道師が「良い人生だったと思える生き方」を語った。

東北支部

☎ 022-217-0081

✉ tohoku@songenshi-kyokai.com

| 第23回仙台駅横リビング・ウイル交流サロン

日程○1月20日(金)午後2時～3時半

テーマ「おひとりさま バンザイ
～寂しさもあるが、楽しいこともいっぱい」

会場○「せんだいアエル」6階特別会議室
(JR仙台駅西口、徒歩3分)

お友達をお説いて、どなたでもどうぞ。無料
次回「交流サロン」は4月21日(金)、場所・時間
は今回と同じです

北海道支部

☎ 011-736-0290

✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

| おしゃべり広場

日程○1月17日(火)、2月21日(火)、
3月21日(火)いずれも午前10時～正午
会場○札幌エルプラザ 1月は4階研修室、2月は
3階OA研修室、3月は3階多目的研修室
それぞれ先着20人、予約は不要です

LWの受容協力医師

第86報

2016年9月～11月の間に新しく登録された医師の方々です。

[会は会員医師]

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
小野内科胃腸科クリニック	内科、胃腸科	小野和彦	山形県村山市楯岡五日市14-25	0237-52-5050
長徳寺クリニック	整形外科、リハビリテーション科	中西耕三会	富山県射水市本町2-11-24	0766-84-7171
滋賀県立小児保健医療センター	耳鼻咽喉科	中井麻佐子会	滋賀県守山市守山5-7-30	077-582-6200
稻荷山武田病院	外科、緩和ケア科	塙 健	京都府京都市伏見区深草正覚町27	075-541-3371
京都東山老年サナトリウム	内科	戸田省三	京都府京都市山科区日ノ岡夷谷町11	075-771-4196
今泉クリニック	内科、胃腸科、放射線科	竹原満登里	兵庫県宝塚市逆瀬川2-4-3	0797-72-3864
だいとうクリニック	内科、緩和ケア科、終末期医療	大頭信義	兵庫県姫路市白銀町36-1 中ノ門シャポーホール2階	079-222-6789
あずま在宅医療クリニック	内科	東 英子	大阪府守口市紅屋町7-12 Annex Nakano1階	06-6991-8010
遠賀中間医師会 おかげき病院	内科、リハビリテーション科	竹之山利夫会	福岡県遠賀郡岡垣町大字手野145	093-282-0181
シャロンクリニック	内科	上門 一 会	沖縄県那覇市首里石嶺町4-238-2 メディカルいしみね3F	098-884-1300

※LW受容協力医師名は、関西支部(6月公開予定)を除いて協会各支部ホームページで閲覧できます。

会員専用認証パスワードは「jsdd」です。

ご寄付ありがとうございました (敬称略)

秋山 孝	2,000	北林和子	2,460	富永マユミ	10,000	匿名	10,000
旭 忠子	90,000	木村 勇	10,000	中村良子	2,000	匿名	3,000
石井恵美子	1,000	小谷由紀子	2,000	長野貴美子	2,000	匿名	2,800
泉 和子	2,000	此川正昭	2,000	西村夫佐子	10,000	匿名	12,800
猪俣美代	30,000	齋藤喜美枝	31,057	西本千津	2,000	【北海道支部扱い】	
今井 昇	30,000	鹿 暢子	3,000	西 雅子	5,000	澤田 達	10,000
岩崎稔子	10,000	島 周治	5,000	野口和子	3,000	千葉セイ子	2,000
臼井サチ子	8,900	菅波瑛子	10,000	萩原孝行・和子	3,000	盛 裕子	1,020
江崎政子	5,000	菅原 清	23,940	原田とよ子	2,000	沢口栄子	1,000
榎並他家治	10,000	鈴木ふみ子	1,000	原田千恵子	10,000	柴田笑子	5,000
大野節子	5,000	鈴木悦朗	13,010	春山黎子	10,000	工藤 瞳	3,000
大崎壽美子	10,000	須永道子	500,000	福田聖・八恵子	2,000	合田文子	1,000
大田重子	4,000	高口惟子	2,800	藤原正雄	5,000	【東海支部扱い】	
片岡訓子	20,000	田川照夫男・嘉枝	2,000	古谷浩司	5,000	安田小夜子	5,000
片野八千代	1,900	田川隆夫	5,000	増井和義	30,000	【関西支部扱い】	
加藤静枝	50,000	田中幸枝	1,312	三科省三・登志子	2,000	千畠敏造・朝子	10,000
金子たま	10,000	長 京子	5,000	村田昭子	5,000	【四国支部扱い】	
川市 明	1,046	徳丸知代	1,900	矢野郁子	10,000	池田京子	10,000

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。

いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添えください。

皆さまのご協力、ご支援をお待ちしております。

医療相談
(通話無料)

0120-979-672 (月・水・金曜日
午後1時から5時)

病気や医療、特に終末期の医療について、心配ごとや困りごとを
専門の相談員がお聴きし、サポートいたします。

徳島県・リビングウイル徳島 懇談会

日程○3月25日(土)午後1時半～4時

会場○ふれあい健康館第2会議室

(徳島市沖浜東2-16)

第1部：講演

「公証役場では何ができるの?」

講師○若井伸一氏(徳島公証役場公証人)

第2部：意見交換会

「尊厳死の宣言書等は役に立つか?」

問い合わせ:四国支部徳島事務所 麻野信子

☎(088-692-3457)、FAX(088-692-6044)

どなたでもお気軽にお越しください。入場無料

四国支部

☎ 089-993-6356

✉ shikoku@songenshi-kyokai.com

第3回日本リビングウイル 研究会四国地方会

日程○2月12日(日)午後1時半～4時半

会場○近森病院管理棟3階

高知市北本町1丁目1-28

(JR高知駅から徒歩5分)

テーマ“いい人生だった
ありがとう”と終えるために
～人生の最期をどこでどのように～

1. 講演

「家族を幸せに看取るために
すべきこと」

○長尾和宏・協会副理事長、関西支部長、
長尾クリニック(尼崎市)院長

2. パネルディスカッション

座長○北村龍彦 支部副支部長、支部高知代表

パネラー

○岡林弘毅氏 高知県医師会会長

○松本務氏 あおぞら診療所医師

○筒井早智子氏 高知県自治研究センター理事長

○小松倫子氏 訪問看護ステーション土佐所長

コメントーター

○長尾和宏氏

一般公開、会員以外の方もどうぞ

みやざき公開講演会

日程○1月14日(土)午後1時20分～4時

会場○ウエルネス交流プラザ1階

茶霧茶霧ギャラリー(宮崎県都城市蔵原
町11街区25号)

開会挨拶

○小林浩二 支部みやざき理事
メディカルシティ東部病院副院長

会長講演

「肝臓外科医からみた尊厳死」

○東秀史 支部みやざき会長
メディカルシティ東部病院病院長

特別講演

理想の終焉をめざして～ 「尊厳死(平穏死)のすすめ」

○原信之 協会理事・九州支部長
国立福岡東医療センター名誉院長

定員○先着120人、会員以外の方も歓迎します
ので、お誘い合わせてください。

主催○支部みやざき

後援○宮崎県、都城市、三股町、都城市北諸県
郡医師会

第3回エンディングノート講座

日程○3月8日(水)午前10時～11時

会場○松山市の支部事務所

講演○「介護について学ぶ
～在宅での看取り～」

講師○金田由美子氏

愛媛県在宅介護研修センター長

定員○20人(先着順、支部までお申込み下さい)

支部サロン

日程○1月6日(金)午後1時半～3時半

「新春お茶会」

日程○2月3日(金)午後1時半～3時半

3月3日(金)午後1時半～3時半

会場○いざれも松山市の支部事務所

●本部

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8

太陽館ビル501

TEL 03-3818-6563

FAX 03-3818-6562

メール

info@songenshi-kyokai.com

ホームページ

http://www.songenshi-kyokai.com

郵便振替口座

東京00130-6-16468

●北海道支部

〒060-0807 札幌市北区

北7条西2丁目6 37山京ビル801

TEL 011-736-0290

FAX 011-299-3186

●東北支部

〒980-0811 仙台市青葉区一番町

1-12-39 旭開発第2ビル703号室

TEL 022-217-0081

FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033 東京都文京区

本郷2-27-8 太陽館ビル501

TEL 03-5689-2100

FAX 03-5689-2141

●東海支部

〒453-0832 名古屋市中村区

乾出町2-7 正和ビル2階

なかむら公園前法律事務所内

TEL 052-481-6501

FAX 052-486-7389

●北陸支部

〒920-0902 金沢市尾張町1-7-1

山崎法律事務所内

TEL 076-232-0900

FAX 076-232-0932

●関西支部

〒532-0003 大阪市淀川区

宮原4-1-46 新大阪北ビル702号

TEL 06-4866-6365

FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024 広島市中区

西平塚町2-10

TEL 082-244-2039

FAX 082-244-2048

●四国支部

〒790-0067 松山市大手町1-8-16

二宮ビル3F B

TEL 089-993-6356

FAX 089-993-6357

●九州支部

〒810-0001 福岡市中央区

天神1-16-1 毎日福岡会館5階

TEL&FAX 092-724-6008

尊厳死の宣言書

(リビング・ウイル Living Will)

私は、私の傷病が不治であり、かつ死が迫っていたり、生命維持措置無しでは生存できない状態に陥った場合に備えて、私の家族、縁者ならびに私の医療に携わっている方々に次の要望を宣言いたします。

この宣言書は、私の精神が健全な状態にある時に書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限り有効であります。

●私の傷病が、現代の医学では不治の状態であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りいたします。

●ただしこの場合、私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください。

●私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめてください。

以上、私の宣言による要望を忠実に果たしてくださった方々に深く感謝申し上げるとともに、その方々が私の要望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にあることを付記いたします。

リビング・ ウイルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わりが近づいたら延命措置を望まないで、自然の摂理にゆだねて寿命を迎えるご自分の意思を表したりリビング・ウイル「尊厳死の宣言書」を発行。その普及に努めています。現在11万人を超す方がリビング・ウイルを持ち、安心した日々を送っています。自然のまま寿命を迎えることは、最期の日々をよりよく生きることであり、今を健やかに生きることにつながります。お友だちやお知り合いに協会や「宣言書」のことをお伝えいただければと願っています。

事務局から

会費の自動払込の案内 希望者はご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から自動引き落とし)制度があります。利用には諸手続きがありますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。次の要領で実施しております。

対象 ▶ 希望の会員

払込日 ▶ 会費払込該当月の28日(4月払込の方なら4月28日に引き落とし)

払込額 ▶ 会費相当額

手数料 ▶ 1回の払込に162円(150円+税)のご負担があります

取扱 金融機関 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、ゆうちょ銀行、農協含む)

領収書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可能です。会報が緑色のビニール封筒で届いたら年会費の納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷しております。

今号の1枚『迎春』



初日の出
ありがとう
出会ったあなた
ありがとう
大自然の恵み
ありがとう

●会員の皆様に協会のことを知つていただきたい。会報の編集方針に協会活動の「見える化」があります。そのひとつが「支部活動・最前線」のページで、全国9支部を取り材で訪れます。その度に支部を担当理事と事務局の方々の、尊厳死普及にかける熱い思いと粘り強い取り組みに頭が下がります。尊厳死協会はこうした地道な弛まぬ活動に支えられているのです。(清水)

Living Will 目次

— 会報2017年1月 No.164 —

- 02 特別座談会 小泉純一郎元首相 最期をライオンのように
- 08 年頭所感 理事長 岩尾總一郎 多死社会こそLWの存在感を
- 10 療養14万病床の廃止・転換計画
- 12 ●LWのひろば
- 14 ●支部活動 最前線 九州支部くまもと「市民フォーラム」／四国支部「エンディングノート講座」／東海支部第3回LW研／「緩和ケア学び隊」連続講座／東北支部第3回LW研／関東甲信越支部「終活フェア」
- 17 ●支部活動 2017冬～春
- 21 LW受容協力医師／ご寄付／「医療相談」
- 22 事務局から／編集後記／目次
- 23 尊厳死の宣言書／本部支部一覧
裏表紙 出版案内

協会会員: 11万3633人
(2016年12月5日現在)

次号は、
2017年4月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記

●座談会を終えて自分の車に乗ろうとした元首相は忘れ物に気づきました。バッグを手に戻りながら、私を見て「バッグを忘れるようじゃ、俺も終わりだな」と笑いかけていました。その後、新潟市で講演し、県知事、新潟市長ともども「原発ゼロ」を呼びかける写真を新聞で見ました。

「終わり」どころか小泉純一郎さんは元気いっぱい。今号座談会でもその一端がうかがえます。

(白井) えます。

出版案内

日本尊厳死協会が会員の皆様にお勧めする必読の書。好評発売中です。

新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社

人生の最期で迷わないために
尊厳死の「不治かつ末期」

専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく説明しています。あなたの「?」に答えがあります。

- がんの末期 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す?
- 持続的植物状態 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら?
- 腎不全 「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら?
- 救急医療 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは?
- 認知症 「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は?
- 老衰 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か?

自分の終末期にどのような医療を望むのか、望まないのか。
医師たちは「具体的な意思表示が大切」と訴えています。

モルヒネは鎮痛薬の王者 あなたの痛みはとれる

編著 日本尊厳死協会 発行 中日新聞社

医療用麻薬のモルヒネ
適正使用で「痛み」はとれる

医療用麻薬を適切に使用した緩和医療は会員の願いです。

●激痛から解放された

「痛みが取れ、夜よく眠れて、食欲も出てきた。夢のようです」——モルヒネの投与で激痛から解放された患者の喜びの声です。

●誤解されているモルヒネ

モルヒネの「中毒になり、死期を早める」「がん末期にしか使えない」といった誤解は、世界の医学界が否定しています。適正に使用すれば「鎮痛薬の王者」なのです。

●がん以外の痛みにも効果

帯状疱疹後神経痛、ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折、バージャー病、閉そく性動脈硬化症など、がん以外の痛みにも効果があります。

●専門医がアドバイス

執筆者の1人、加藤佳子医師は、「痛みは本人にしか分からない。我慢しないで、医師に『痛みを取ってください』と言いましょう」と呼びかけています。



お求めは協会事務局で

いずれも1100円(税・送料込)。お名前、住所、購入希望本を明記のうえ、代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に郵送してください。